

あとがき

本書は、人類学ならではの直接体験に依拠するフィールドワークの感動や興奮がそのまま詰めこまれた、小さな、だが、きらりと輝く天然石のような論集になったと自負している。執筆者の多くが、モンゴルと日本を行き来しながら原稿を書きあげてきた。モンゴルの草原に本拠地を置いての長期フィールドワーク中に、郡や県の中心地に出てきてはパソコンに向かった者もいる。

編者らは、フィールドの臨場感あふれる原稿を読んで、わくわくしながらコメントを送った。これに対して著者らは、コメントに応えるために再び草原に出かけて調査と思索を深める、というプロセスを踏むことで本書はできあがった。

なお本書は、「はじめに」でも述べたとおり、2回の公募共同研究を土台として編まれた論文集である。共同研究の成果の概要は以下の通りである。

2014 年度 第 1 回シンポジウム

「畜産物の流通にみるモンゴル高原のグローバリゼーション」

場 所：東北大学東北アジア研究センター ラウンジ

日 時：2014 年 3 月 7 日（土）10 時 15 分～18 時

主 催：東北アジア研究センター

〈プログラム〉

- ・開会辞 風戸真理（北星学園大学）
- ・報告 1 「内モンゴルにおける牧畜戦略に対する物流の規定性」
尾崎孝宏（鹿児島大学）
コメンテーター 小沼孝博（東北学院大学）
- ・報告 2 「移行経済下の都市周辺地域における牧畜経営の実態とその特徴」
富田敬大（立命館大学）
コメンテーター 杉本 敦（東北大学）

- ・ 報告 3 「モンゴル国における羊毛製品流通の変化にみる文化の動態」
風戸真理（北星学園大学）
コメンテーター 塩谷昌史（東北大学）
- ・ 報告 4 「清朝治下モンゴルにおける人とモノの移動」
中村篤志（山形大学）
コメンテーター 尾崎孝宏（鹿児島大学）
- ・ 総合コメント
高倉浩樹（東北大学）、岡洋 樹（東北大学）
- ・ 総合討論
- ・ 閉会挨拶 尾崎孝宏（鹿児島大学）

2015 年 第 2 回シンポジウム

「モンゴルとカザフにおけるモノの域外流通と域内流通」

場 所：東北大学東北アジア研究センター 大会議室

日 時：2015 年 2 月 20 日（土）10 時 30 分～18 時

主 催：東北アジア研究センター

〈プログラム〉

- ・ 趣旨説明 風戸真理（北星学園大学）
- ・ 報告 1 「18－20 世紀ロシア＝中央アジア間の隊商交易とカザフの牧畜」
塩谷哲史（筑波大学）
- ・ 報告 2 「社会主義モンゴルにおける生産と流通の関係とローカリティ」
富田敬大（立命館大学）
- ・ 報告 3 「現代モンゴル高原における乳酒の製造と流通について」
尾崎孝宏（鹿児島大学）
- ・ 報告 4 「モンゴル国の牧畜社会における贈与とゲル」
風戸真理（北星学園大学）
- ・ コメント
岡洋 樹（東北大学）
塩谷昌史（東北大学）
高倉浩樹（東北大学）
- ・ 総合討論
- ・ 閉会挨拶 尾崎孝宏（鹿児島大学）

これら2回の共同研究から本書の出版企画に至るまで、3年間にわたって私たちを支援してくださった東北アジア研究センターのみなさま、また、シンポジウムにご参加くださり、貴重なご報告および重要なコメントをくださったみなさまにこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。本書を出版することができたのは、ひとえに皆様方のあたたかいご指導とご鞭撻のたまものと心より感謝申し上げます。

2016年10月5日

風戸真理・尾崎孝宏